

本編フルカラー

50p

そのおっぱいに魅了されて……

魅了され遊ばれ搾精される僕の話

乳神様



これから話す内容は
僕が子供の頃に
体験した出来事だ

内容があまりにも
突飛なので作り話
と思ってもらっても
構わない……



祖母は祖父に
先立たれてこの家で
一人で暮らしている

おじいちゃん
今年も来たよ！

ちーん...

だからこそ
祖母も僕たちが遊びに
来るのを毎年温かく
出迎えてくれていた

今年も
悟さとるが来るのを
近所の子らも
楽しみにしているでな

本当に？
僕もだよ！

良かったな
悟

祖母の田舎には
僕と仲良くしてくれる
友達達もいた

みんなと遊ぶのも
毎年の楽しみだった

そんな祖母は
毎年僕にとある話を
してくれていた

遊びに行く
のはいいけど
……

よし
よし

乳神様には

気のつげんとね

祖母の言う
「乳神様」とは
この田舎で古くから
信仰されてきた神の名だ

ふざけた名前に
聞えるかもしれないが

この田舎では
子孫繁栄の神
として崇められて
いる

乳神様は
人懐っこい一面が
あると語られてきた

ときに遊んでほしげに
人前へ姿を現す。
そんな噂もあった

だが同時にそんな
乳神様に魅了されて
しまったがため……

姿を消し
一度と戻って来なくなる
という恐ろしい言い伝えも
あった

じいさんも若え頃に
会ったことがある
言うとったけど
……

ちいと遊んでやって
すぐ逃げたから
何とかなったんじゃ……

悟も氣い
つげんと
いかんぞ……

お袋
またその話か

悟が怖がるから
ほどほどにして
やれよ

マハハハ……

当時の僕は
決まって祖母から
乳神様の伝承を
聞かされていた



うん……

祖母の話は僕は
ただの伝説
としか受け取って
いなかった

あんな事が
起きるまでは

翌日
さっそく僕は
近所の子達と
山へ虫取りに
遊びにでかけた



ミミミ
ミミミ
ミミミ

せー

せー

今年も悟が
来るの俺たち
楽しみにして
たんだぜ!

今年もたくさん
遊ぼうな!!



う……
うん……

相変わらず
元気だな
……



さあ!
取るぞ!!

どこだ
どこだ
どこだ?



ササ

ササ



この辺には
いないかな……？

もっと奥に
行ってみようかな
……

虫取りに夢中になり
森の中を進んでいった
その時……



僕はその音に
誘われるまま
森の中へと進んだ

なんだろう……？



突然
それは聴こえて
きた

森の奥から
鈴の音が響いて
きたのだ



古風な格好をして
いたが、当時の僕と
同年代くらい
の見た目だった

しかし……



その鈴の音の主は
女の子だった

その体格に
そぐわない胸を
彼女は持っていた

もしかして
乳神様
……？

それを見て
彼女が乳神様だと
一発で理解した





えっ!?



あ……!
こっちに
気付いた……

ち、近づいて
来て……



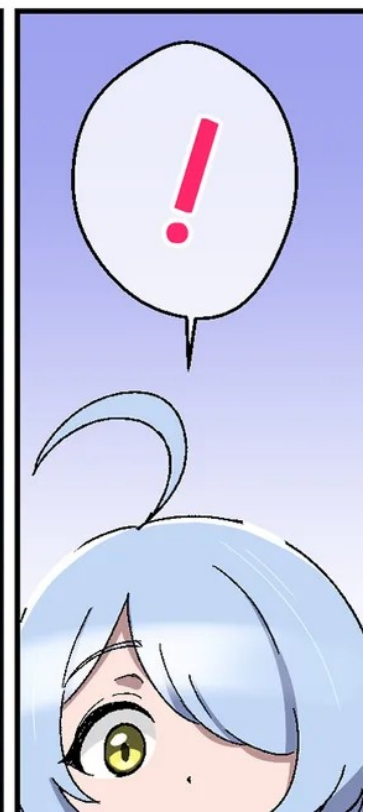
わあっ!!

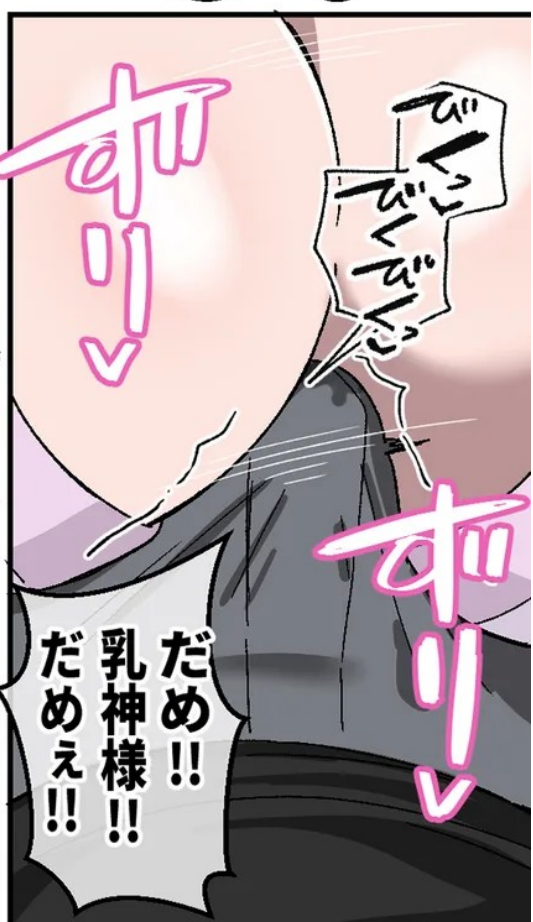
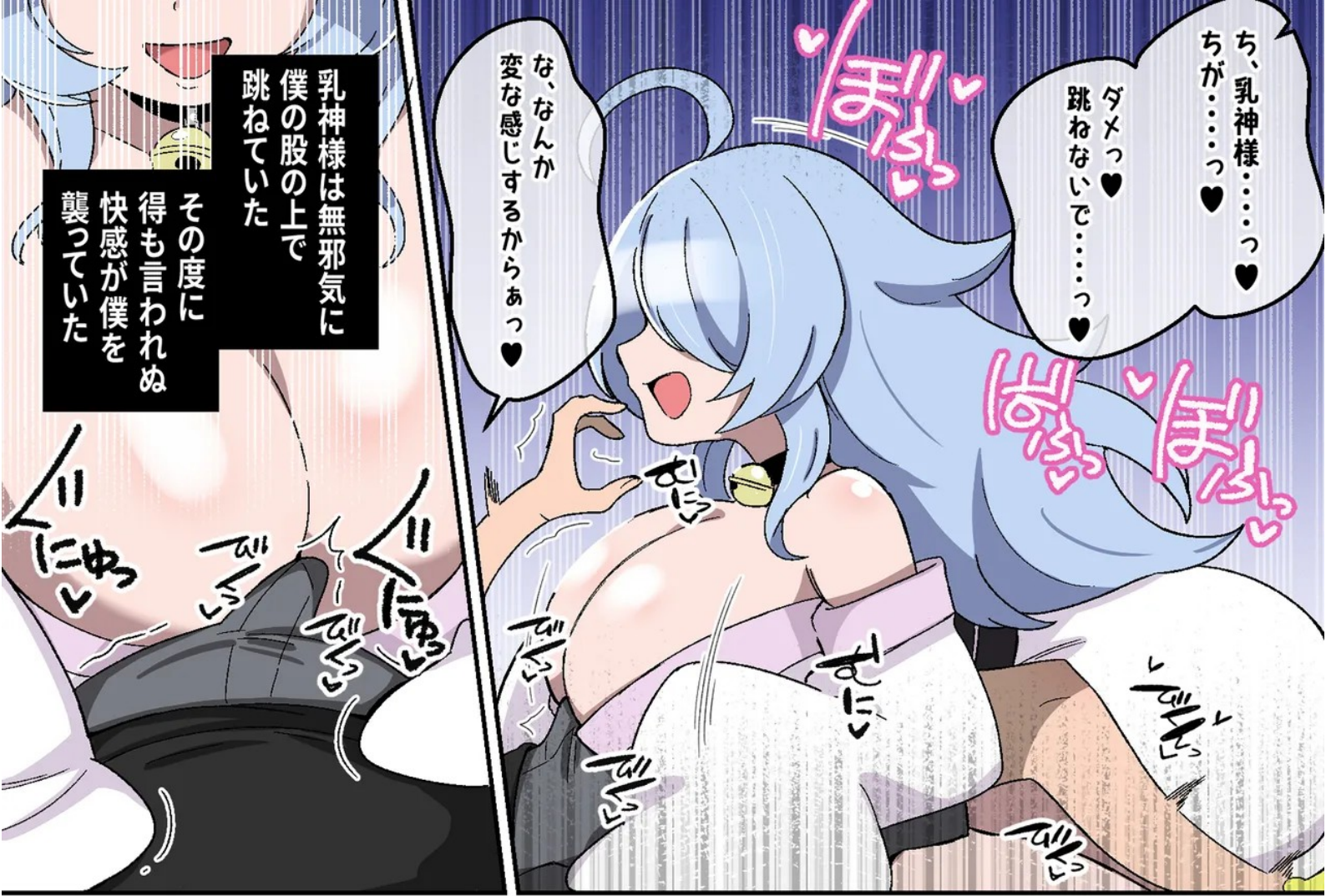
僕は思わず
尻餅をつき
倒れた

無邪気に近づいてきた
乳神様……
しかしその胸の迫力に



えっ!?
あっ……





乳神様の
胸の感触で
初めての射精を
体験した

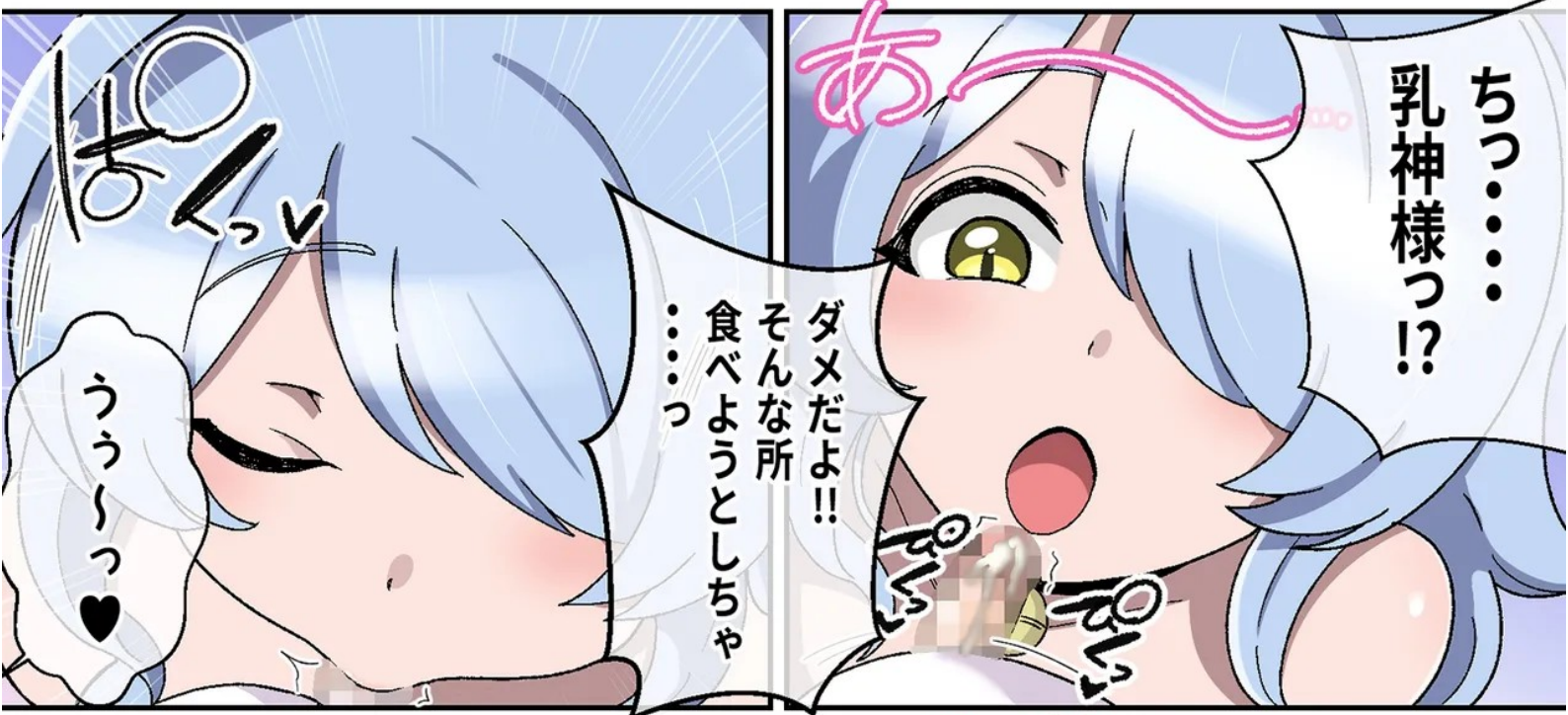
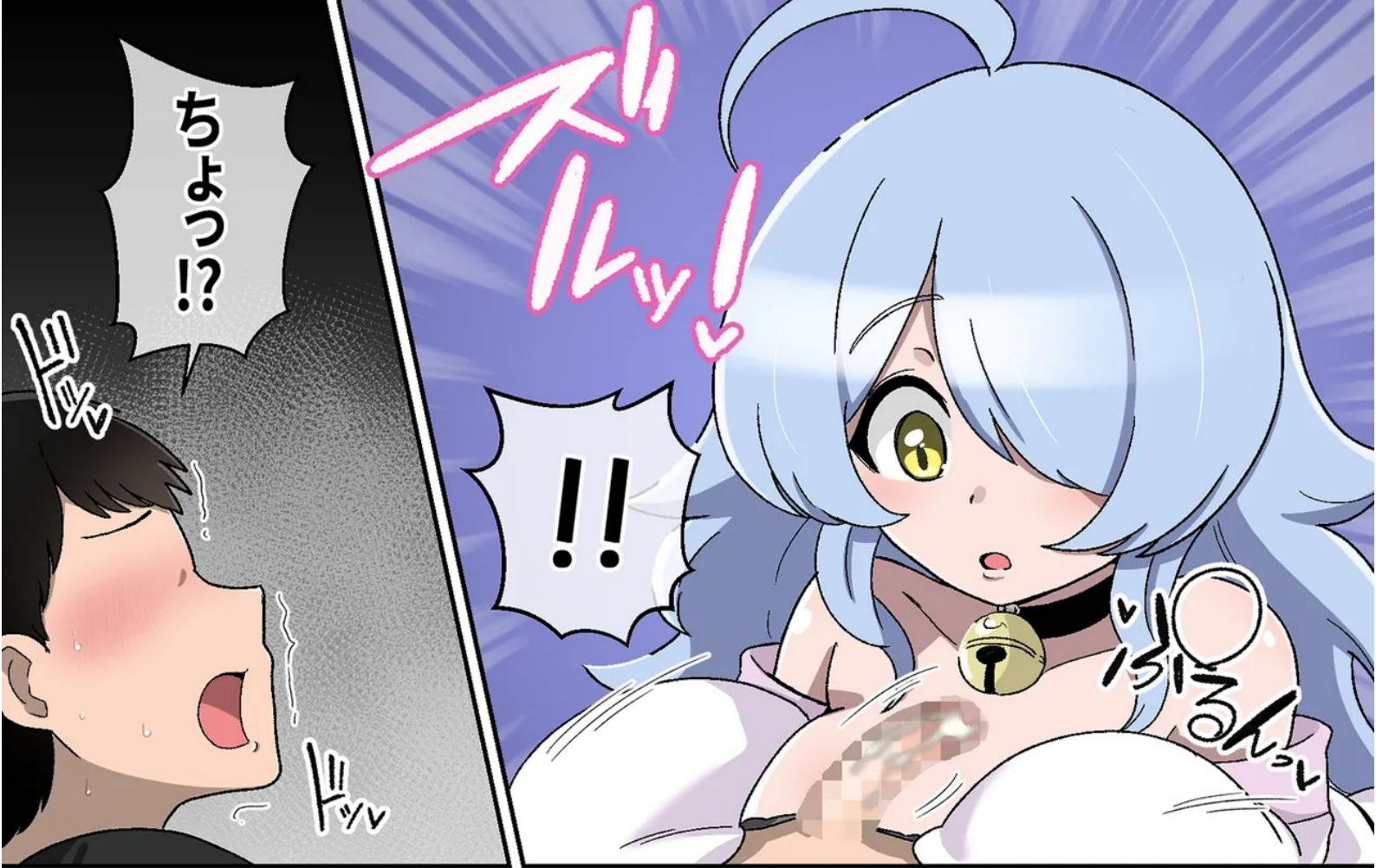


恥ずかしさ
気持ちよさ……
色んな感情が
当時の僕に
駆け巡っていた



何で
脱がそうと
してるの!?







はあっ♡

しゅぽんぽん

ぽんぽん



はっ♡あっ♡
吸い取られる
……っ♡

ちゅ



あっ♡あっ♡
だめっ♡

はっ♡はっ♡
おかしくなる
……っ♡

しゅぽんぽん
ちゅちゅちゅちゅ

ちゅちゅちゅちゅ

かっ

かっ



きつと口による
奉仕は汚れたモノを
綺麗にするための
気遣いだっただろう

その行為は
当時に僕には
刺激的すぎたが
……

満足した乳神様は
ようやく解放して
くれた

はっ♡



ちゅ♡

ぽんぽん



乳神様は
僕に微笑みを
見せ



そのまま
森の奥へと
姿を消した



当然森の中での
出来事は話せる
はずもなかった



迷子になったかと
思ってた心配したぞ！





その夜
僕は完全に
上の空だった

うん……



悟！今日は
どうだった？
楽しかったか？

久々に
みんなと会えて
よかったね



~~~~~

~~~~~

その日は
早々に団欒も済ませ
風呂に入り

そのまますぐ
布団に入った



ちびる



わっ!!!



か

ほっ!

その日は日中の
出来事が反芻し
中々眠れなかった



なのにあんなに……



乳神様……
本当にいた
んだ……

僕と
同じくらい
の子だったなあ
……

翌日再び山へ
虫取りへと向かった

グ
ガ
グ
グ
グ

じゃあ今日も
元気に虫取りに
行くぞーっ!!

ほんと……
2日連続で
よく飽きないわね

昨日はあまり
取れなかった
からな!!

今日こそ
たくさん
捕まえるぞ!!

やれやれ……

わははは!!

ヤレヤレ!

また乳神様に
会えるんじや
ないか……

昨日のような
事がまた体験
できるんじや
ないか……

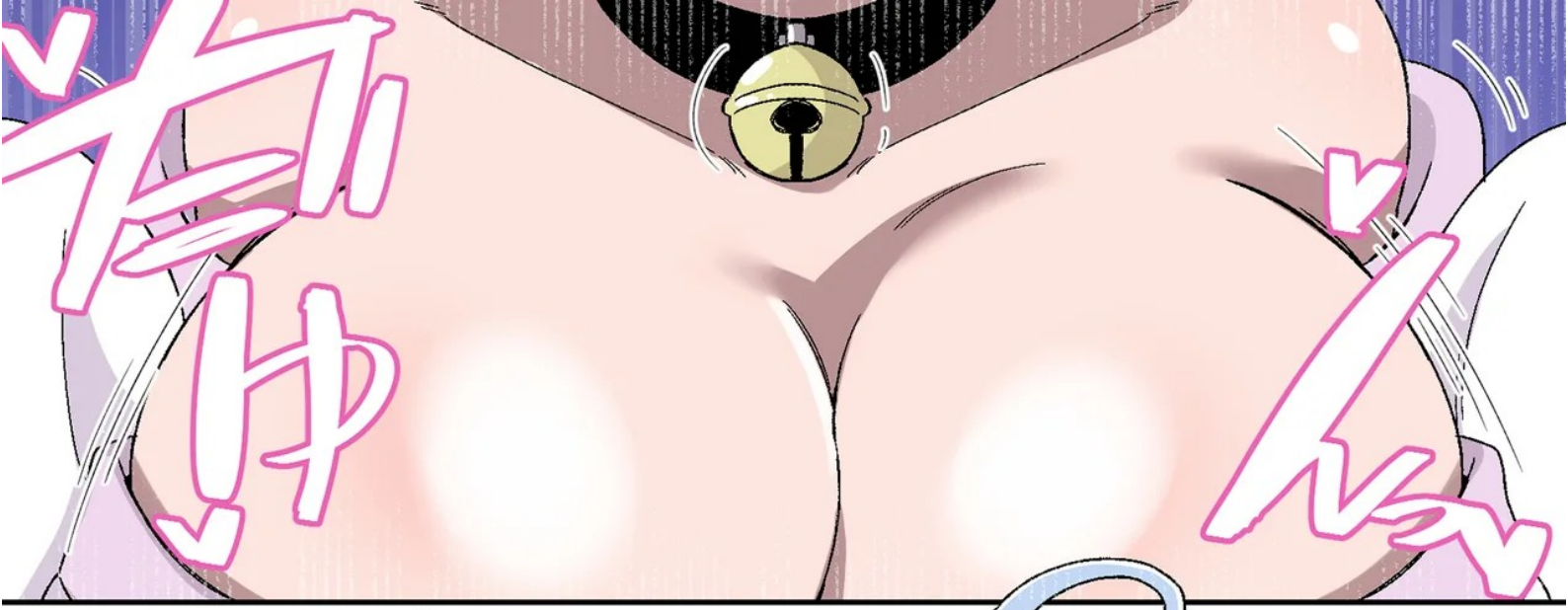
そんな思いを
胸に抱いていた
その時……

その時の自分は
淡い期待していた
……



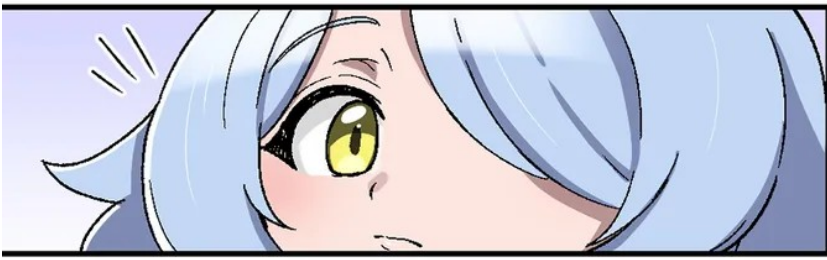
グ
グ
グ





ま……
また会えた!!

昨日の事思い出して
ドキドキする……



緊張で固まっていた
僕をみた乳神様は

何かを察して
優しく微笑み……



いた……!!

い……

優しく
迎え入れてくれた



そんな
乳神様の笑顔
を見て……

自分の中の
理性は一気に
吹き飛んで
しまった



乳神様っ!!





乳神様……♡
おっぱい……

や……
やわらか……♡



無我夢中で
胸元に抱き着く
僕を乳神様は

少し恥ずかしそうに
しながらも
優しく撫でてくれた



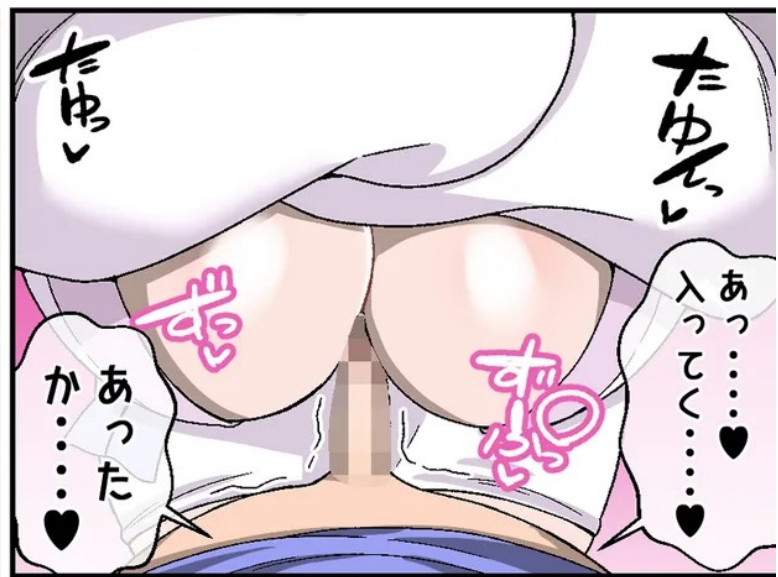
またあの
おっぱいで気持ちよ
くなるやつ……

し……
してください!!

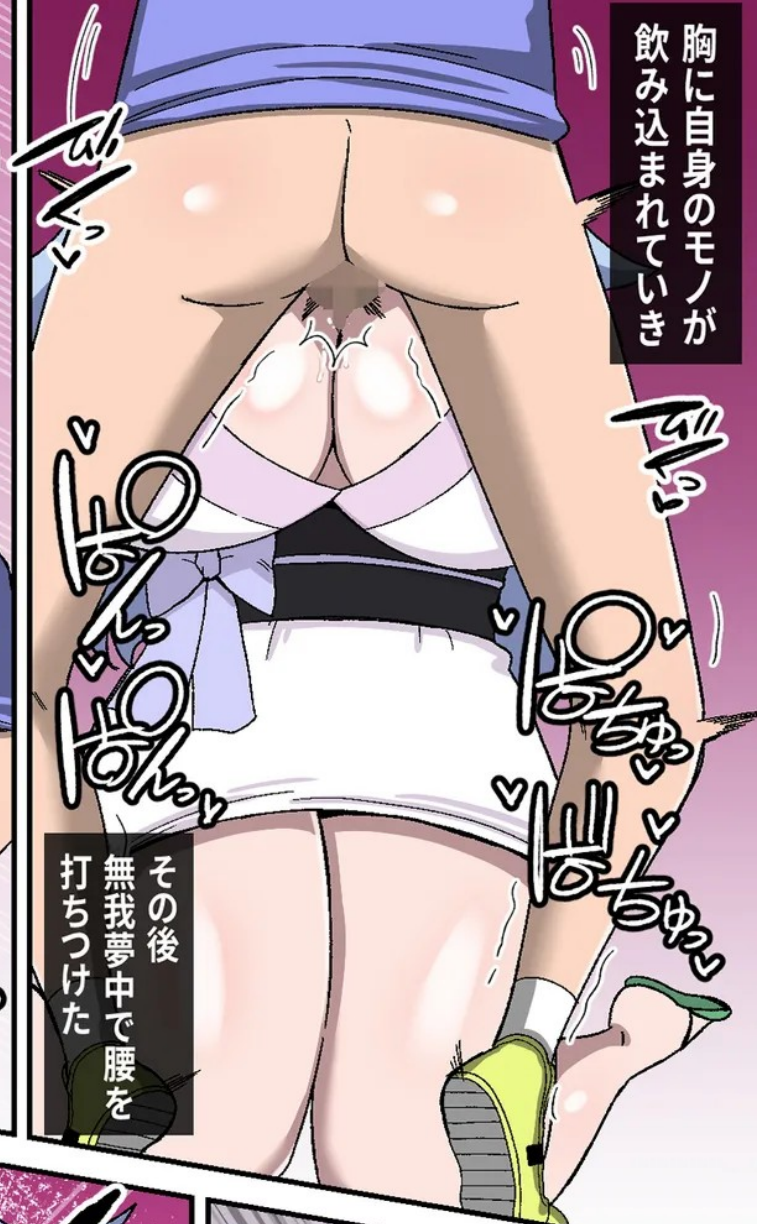
今思えば神様に
対してとんでもなく
罰当たりなお願いを
したと思う……



ち……
乳神様っ!!



胸に自身のモノが
飲み込まれていき



その後
無我夢中で腰を
打ちつけた



おっぱい
柔らかっ♡♡

きもちっ♡

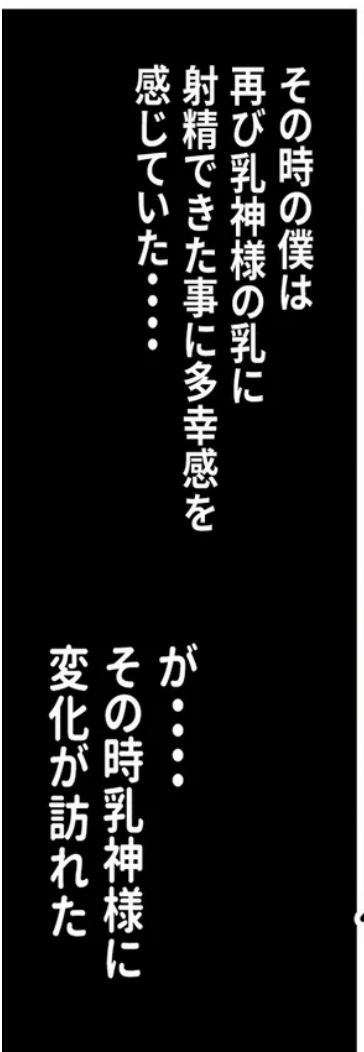


♡



ま、また
出る……っ♡

また出るっ♡
射精ちゃうっ♡



乳神様の体格が
大きくなったのだ



な、なんだか
乳神様大きくなって
る……?!

え……!?

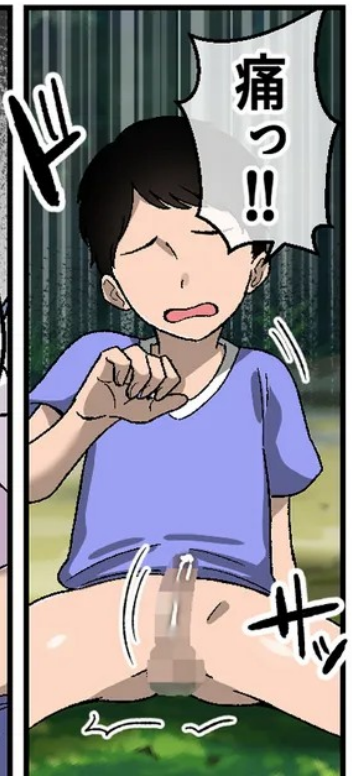


!?

?!



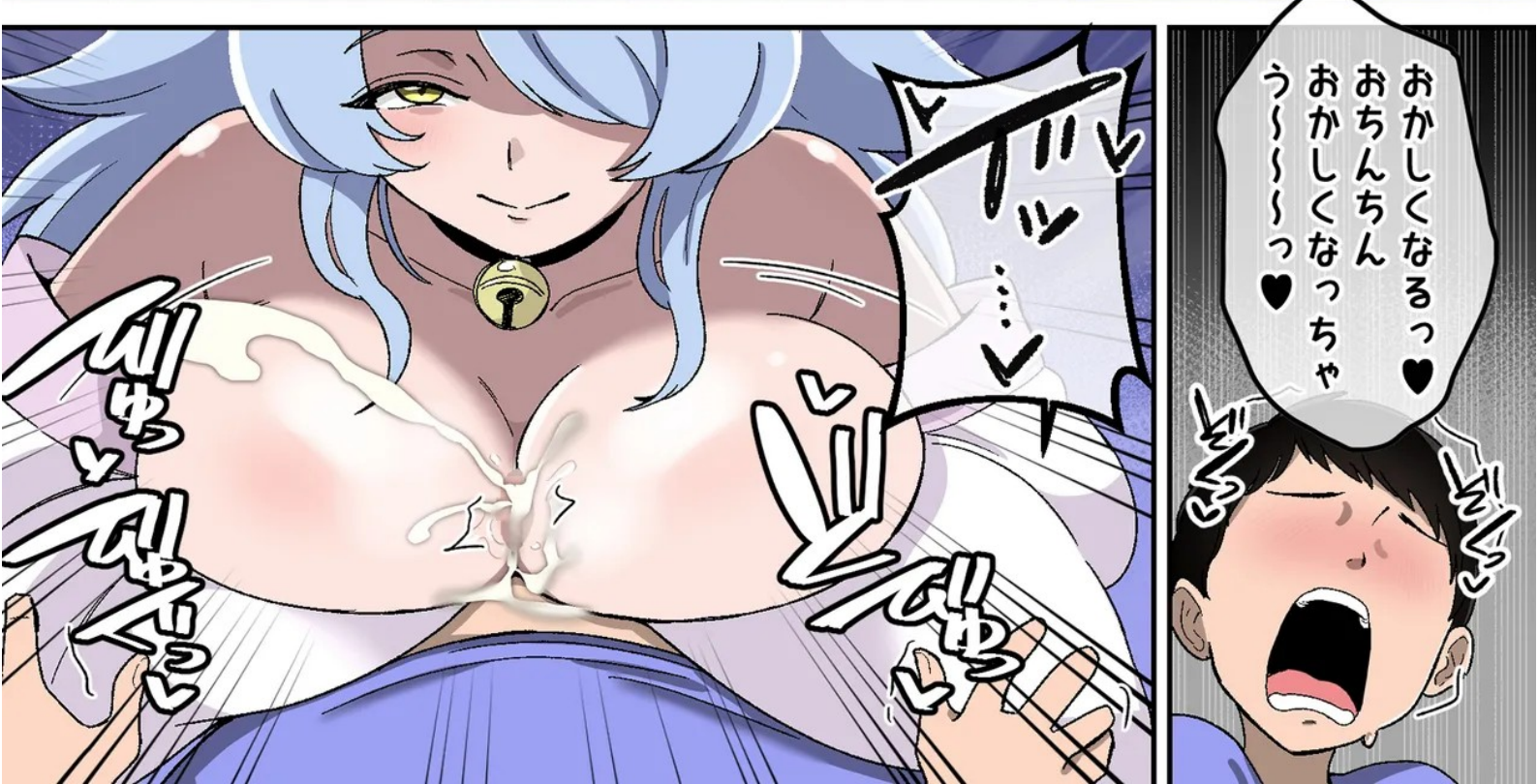
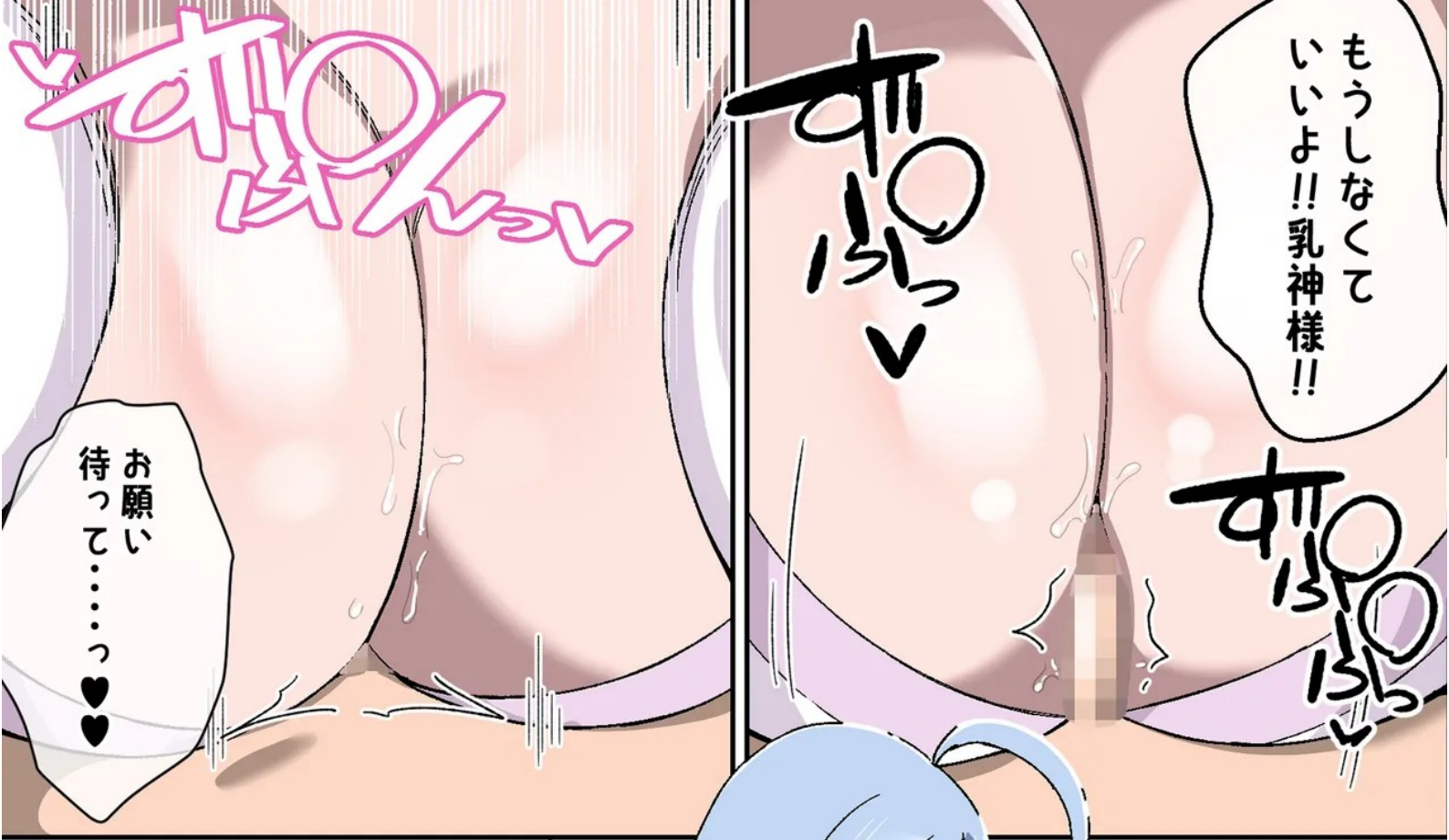
ち、乳神様!?

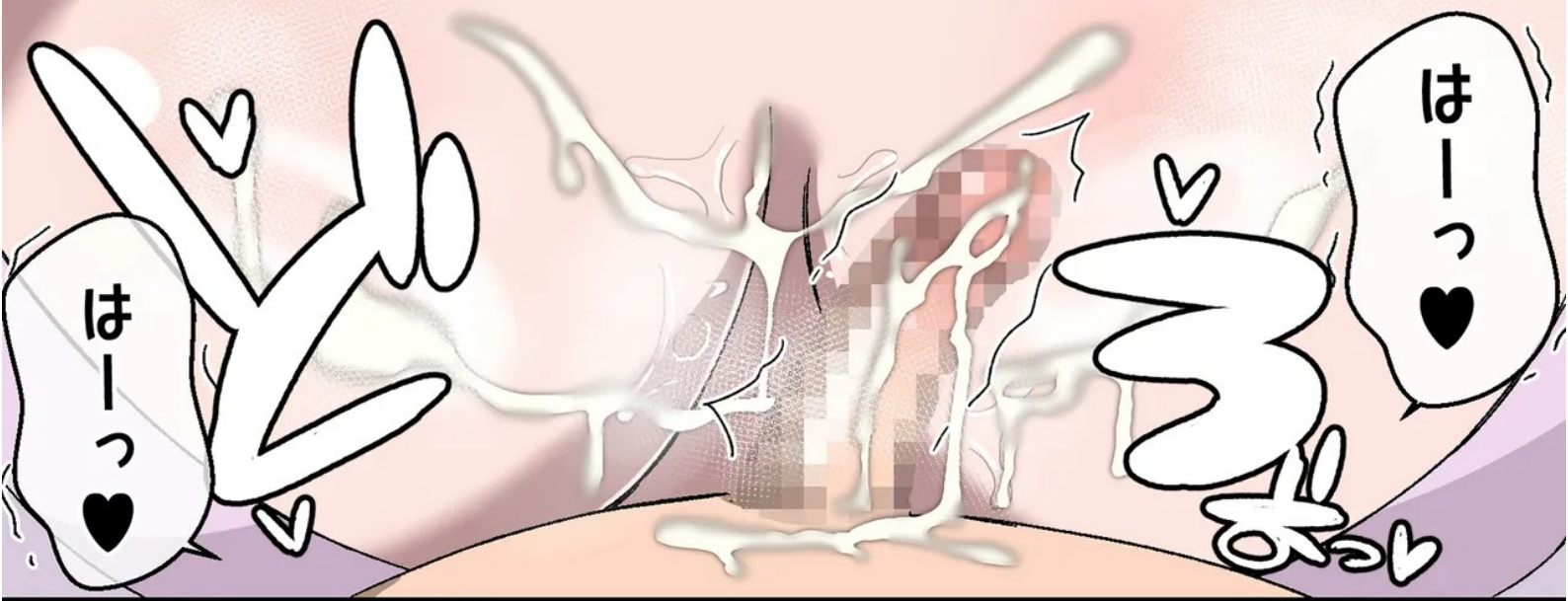


痛っ!!



あっ!









そんなには待ってねえよ

5分くらいだったと思うぜ？

え？

そ……

そうなんだ……

それよりさ！

向こう側に

もっと虫いるかも

しれないから

いこうぜ！！

また体調悪くなったら
言いなよ

う……
うん……

乳神様の神力に
よるものなのか
皆に怪しまれる
ことはなかった



ニフニフニフニフ

明日は川で
遊ぼうぜ！

いいわね！
行きましょ！

か……川？
でも川だと……

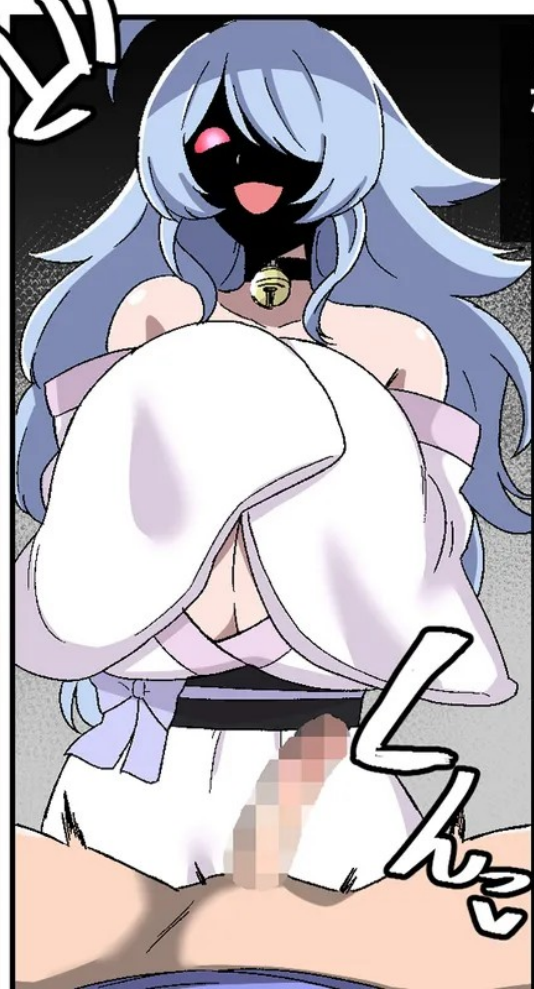
ん？何か
あんのか？

いいや！！
何でもないよ！！
川行こう！！



でもまた
あそこまで
されちゃうのは……

同時にこの時の僕は
成長した乳神様の搾精に
うっすら恐怖を抱いていた



本当はまた
乳神様に会いたい
という気持ちがあつた

しかし……



今日も
疲れたな……

乳神様……
なんで急にあんな
風に成長しちゃった
んだろ……

成長して更に
色々大きくなって
……

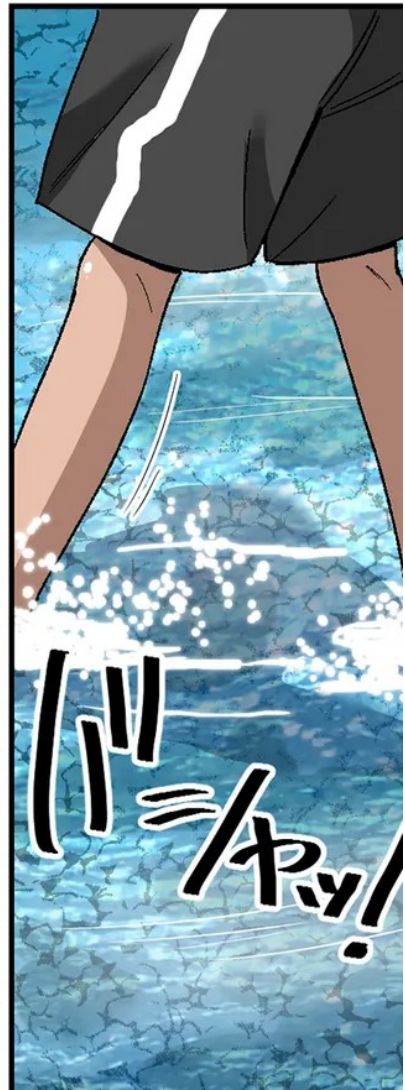
成長した
乳神様の姿が
脳裏に浮かび
この日も
中々寝付く事が
できなかつた



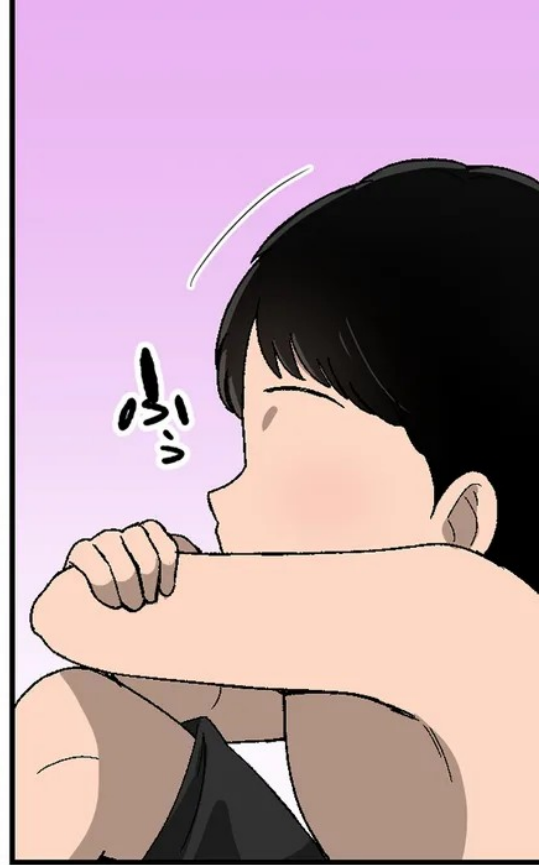
次の日
皆と川遊びに
来たは良いものの

乳神様の事で
頭がいっぱい
遊ぶ気にあまり
なれずにいた

……



バキヤッ!



この鈴の音
まさか……



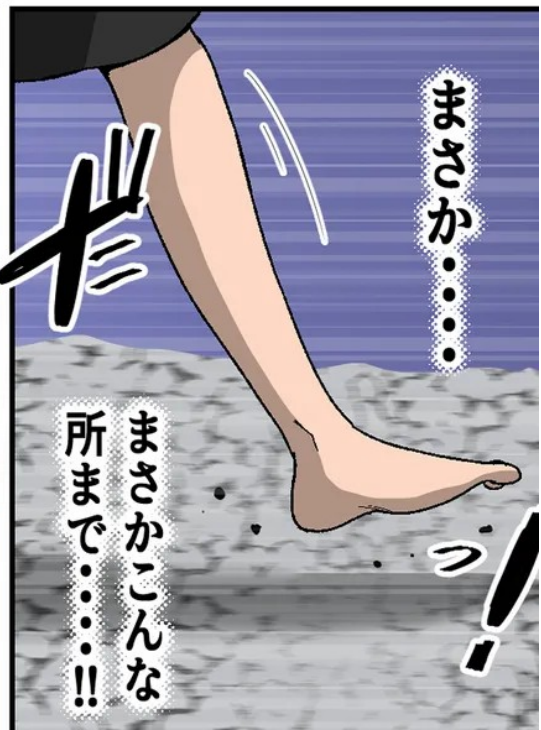
は？！



あれ？



おーい！
悟もこっち
来て……



まさか……

まさかこんな
所まで……!!

鈴の音の主に
たどり着くため

が
サッ
が
サッ



が
サッ
が
サッ



森の奥へ奥へと
必死に走った



ゴオオオ...

が
サッ



開けた場所に
出るとそこには
古い庵があった



その時背後から
自分を狙う視線を
感じた



むせかえるほどの
濃く甘い匂いが
立ち込めていた...

うっ!?



こんなの
あったっけ
...?

恐る恐る
中に入ると...



あーっ……♡



後ろを向くと
そこには更に成長した
乳神様が立っていた



乳神さ
……

えっ!?

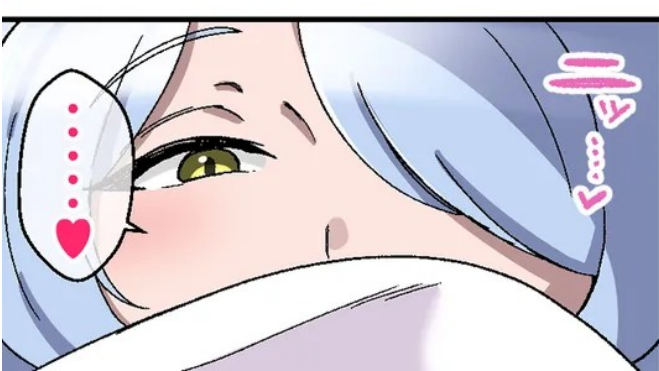
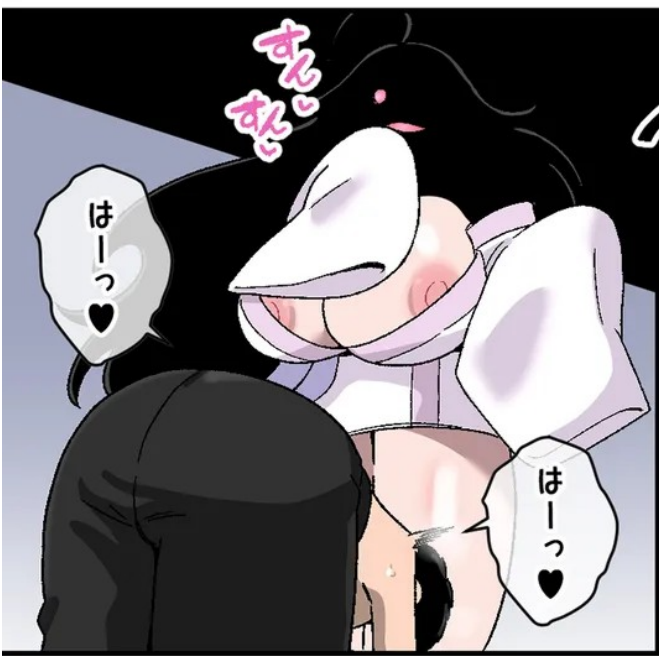


乳神様は
有無を言わず

んうっ!!

僕の顔を引き寄せ
強引に舌を絡め
はじめた

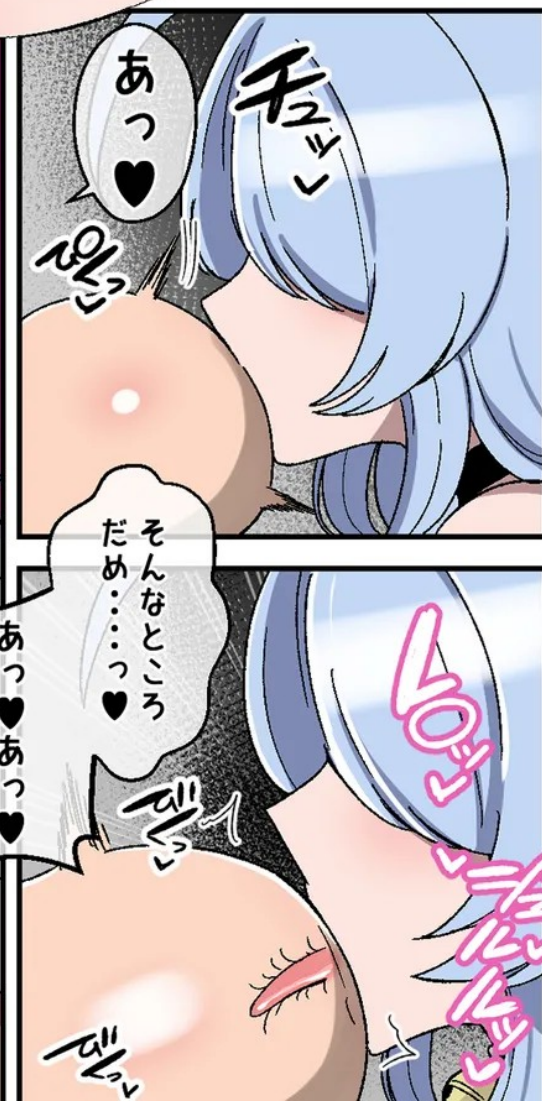
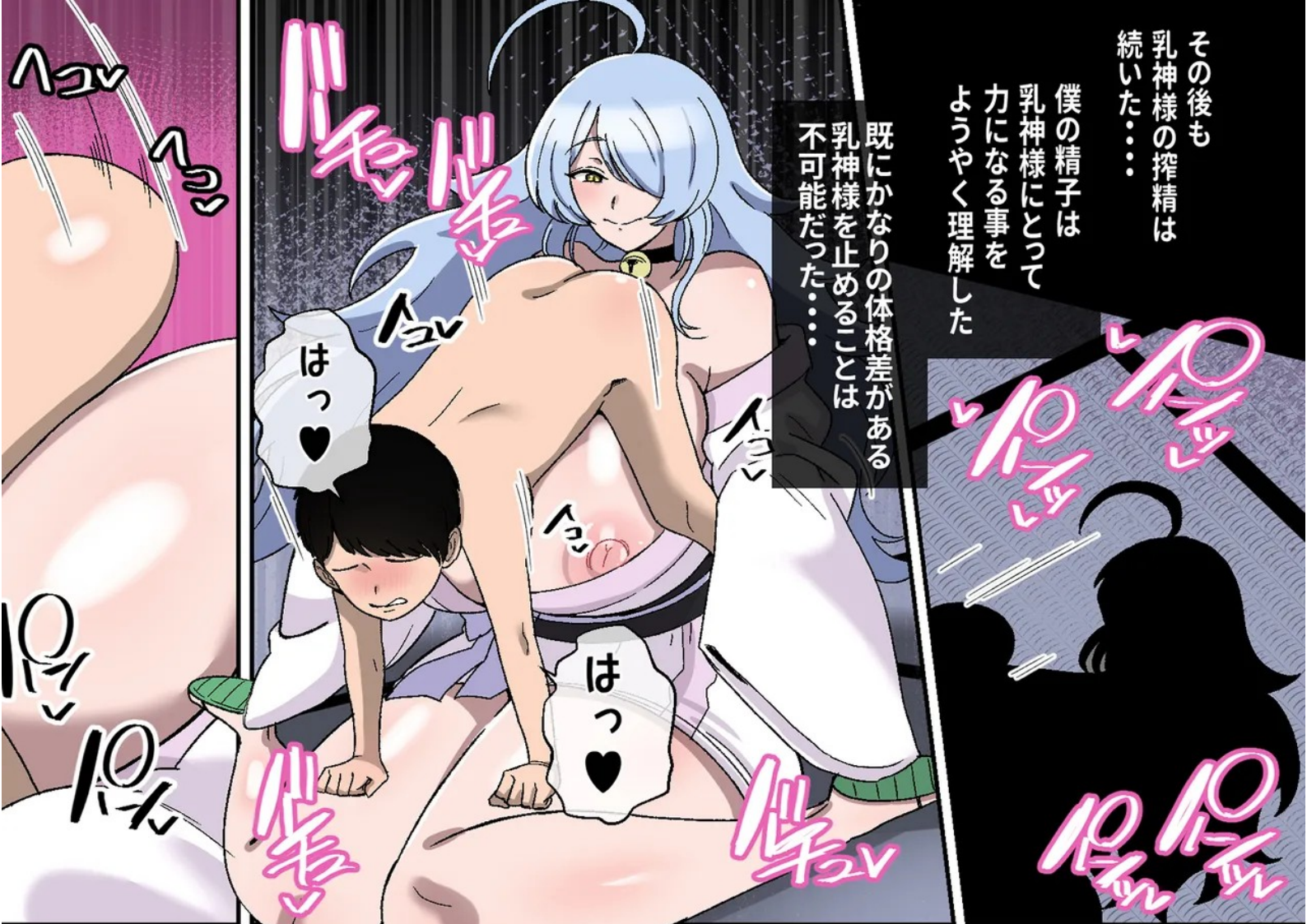




その後も
乳神様の搾精は
続いた……

僕の精子は
乳神様にとって
力になる事を
ようやく理解した

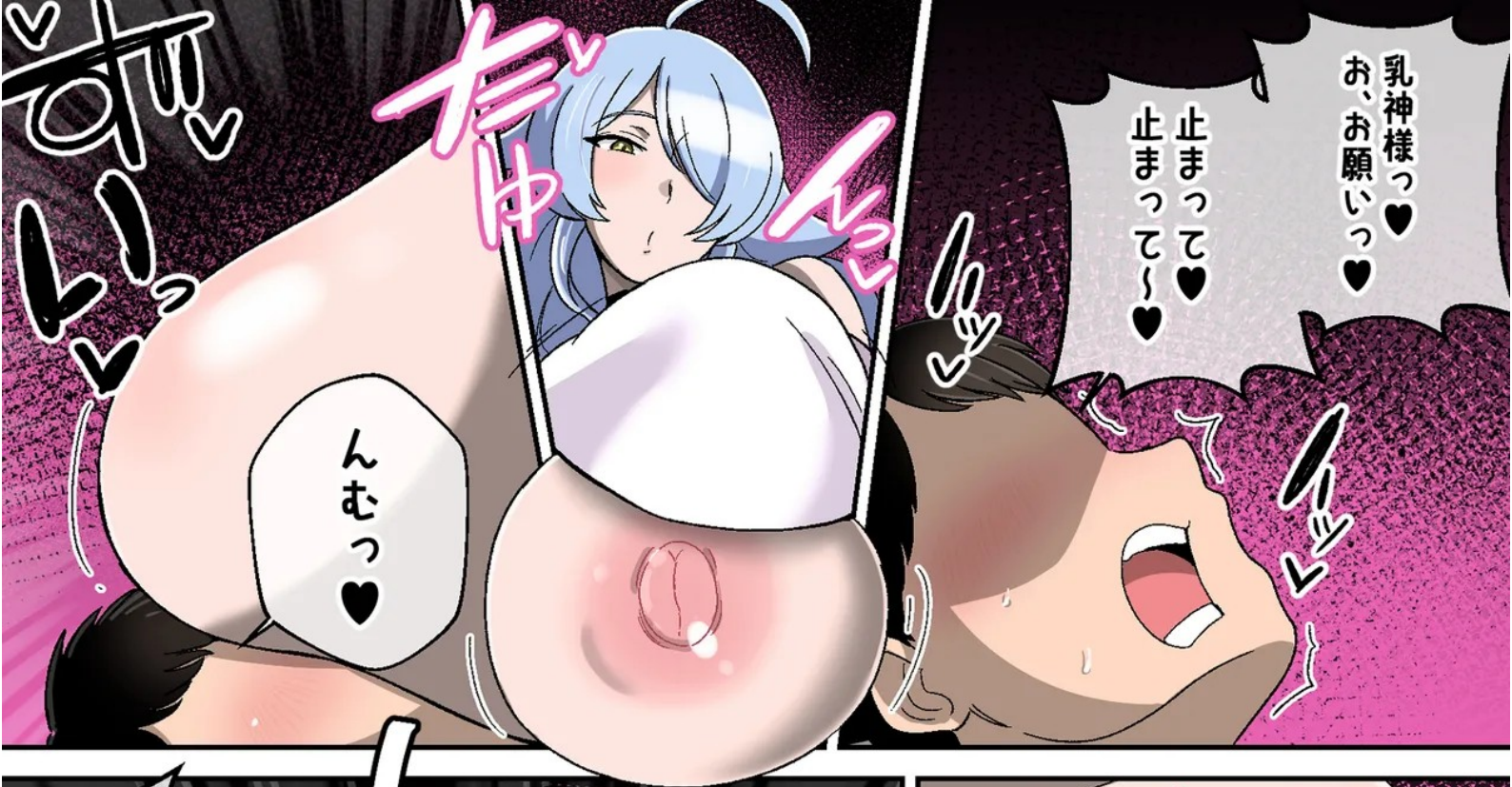
既にかかなりの体格差がある
乳神様を止めることは
不可能だった……



舐めちゃ
だめ♡

そんなところ
だめ……♡

あっ♡あっ♡



乳神様っ♡
お、お願いっ♡

止まって♡
止まって♡
止まって♡

んむっ♡

たゅ
たゅ
たゅ



おちゅん

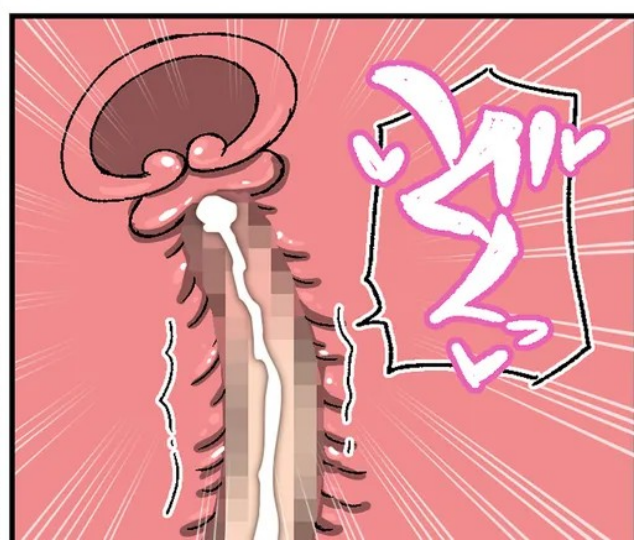
おちゅん
おちゅん
おちゅん



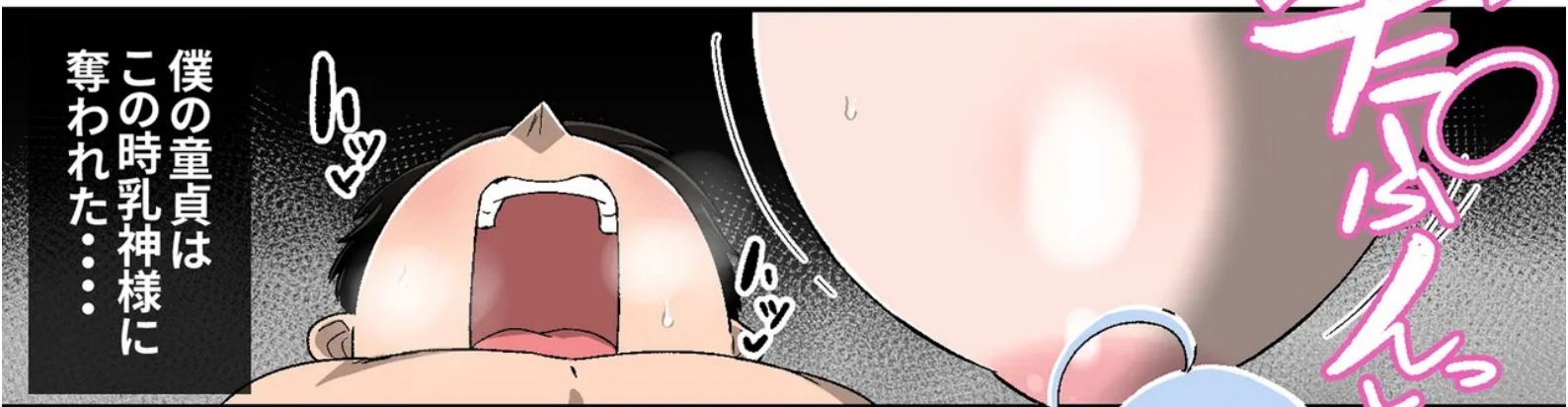
おっぱいで口塞がれて
い、息ができないい……っ♡

ま、またくるっ♡
アしがきちやうっ♡

おちゅん
おちゅん



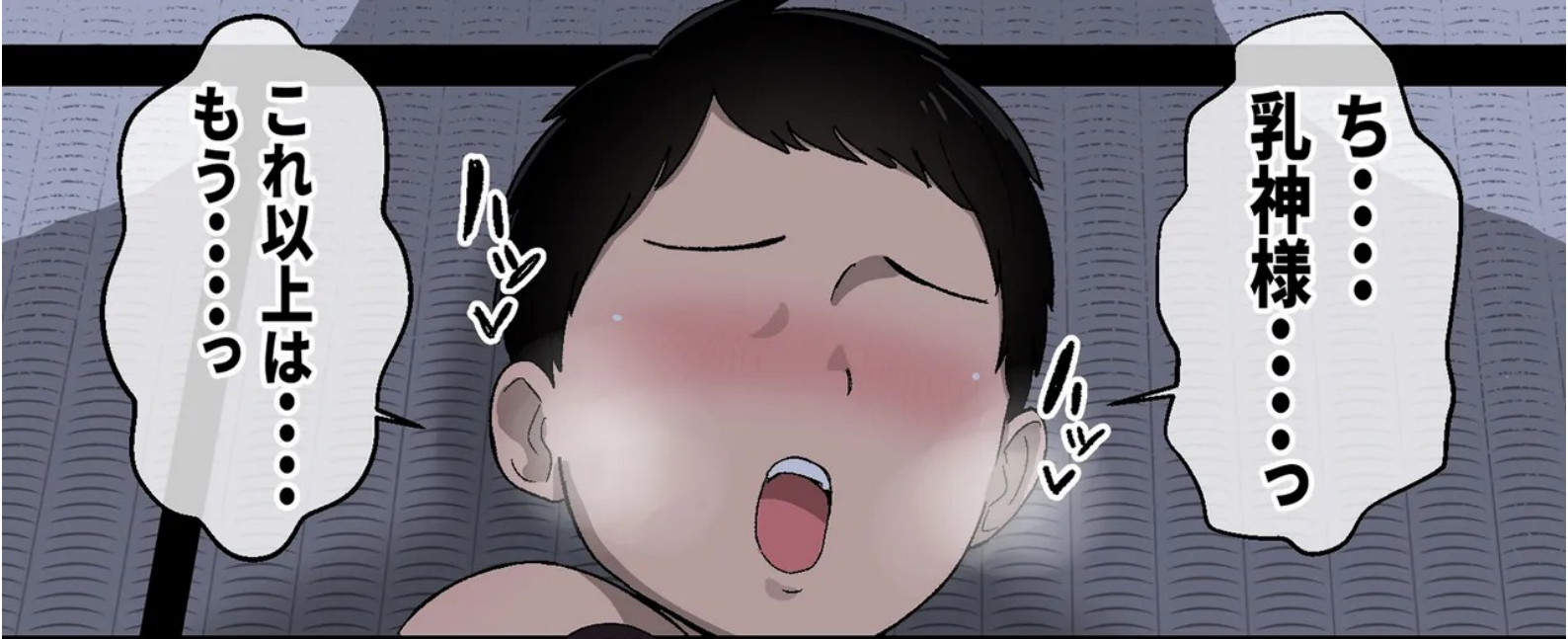
おちゅん



体中を駆け巡る快感と
初体験の射精の余韻で
動くことができなかつた

「これ以上乳神様と
一緒にいるのはまずい」
本能がそう訴えていた

しかし……
乳神様は僕を帰そう
とはしなかつた……



ち……
乳神様……っ

これ以上は……
もう……っ



「乳神様に魅了されると
帰ってこれなくなる」

この時
祖母の話が頭の中で
繰り返されていた

う……っ

っ……っ



っ……っ

乳神様は
楽しそうに笑って
いた……





快樂と苦痛の狭間で
何度も何度も……



おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい



うべっ♡

ぱんぱん



はーっ……♡

ほっ



僕から
何度も搾り取った
乳神様は……

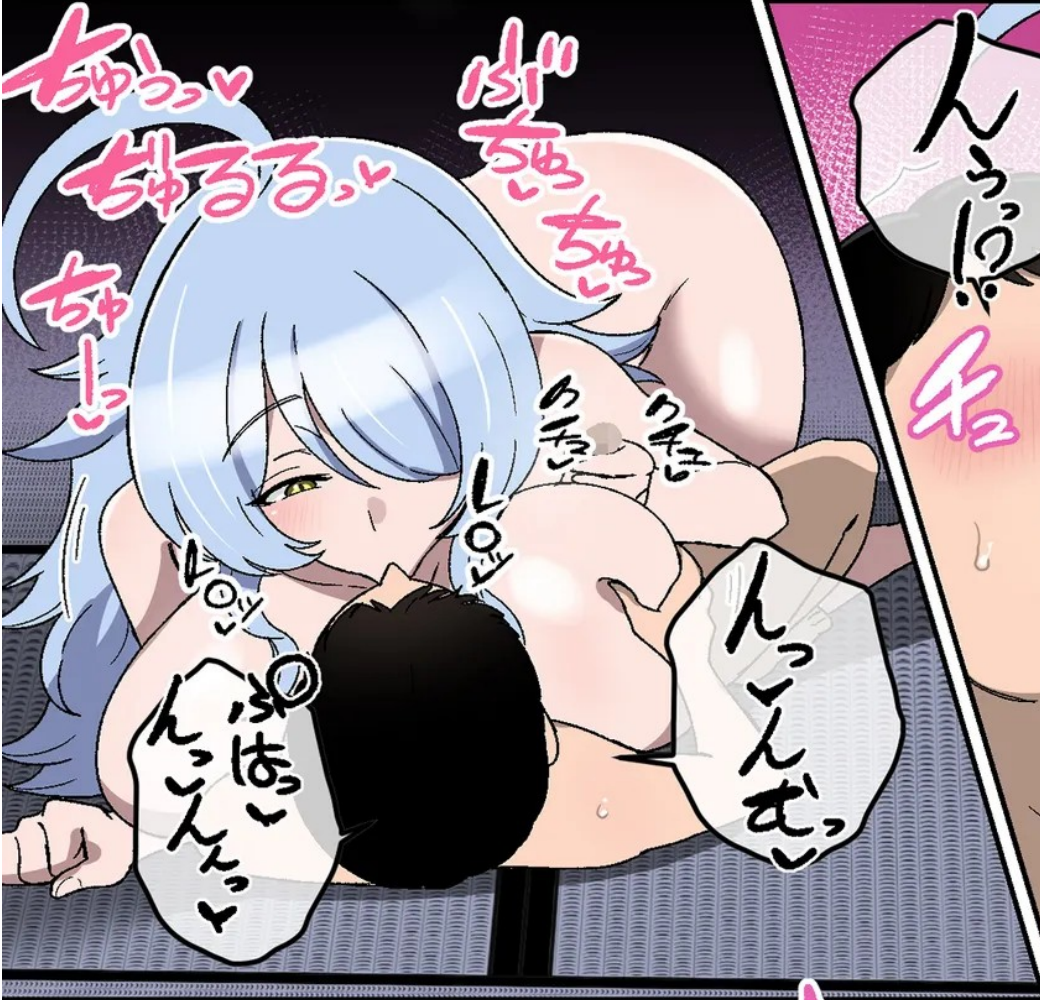
満足そうな
表情でこちらを
見つめていた



死ぬ……
死んじゃう……♡



も……
もう嫌だ……♡
もう止めて
ください……
乳神様……



限界を迎え
そのまま僕は
気を失った

気が付くと
僕は布団の上だった

どうやら乳神様は
解放してくれた
ようだった



両親の話では
林の中で倒れていた
僕を……

探しに来た
子供たちが見つけて
運んでくれたらしい

この時唯一祖母だけが
乳神様の仕業と疑ったが
……



乳神様の
仕業かねえ……

熱中症だろう
という事で
片付けられた

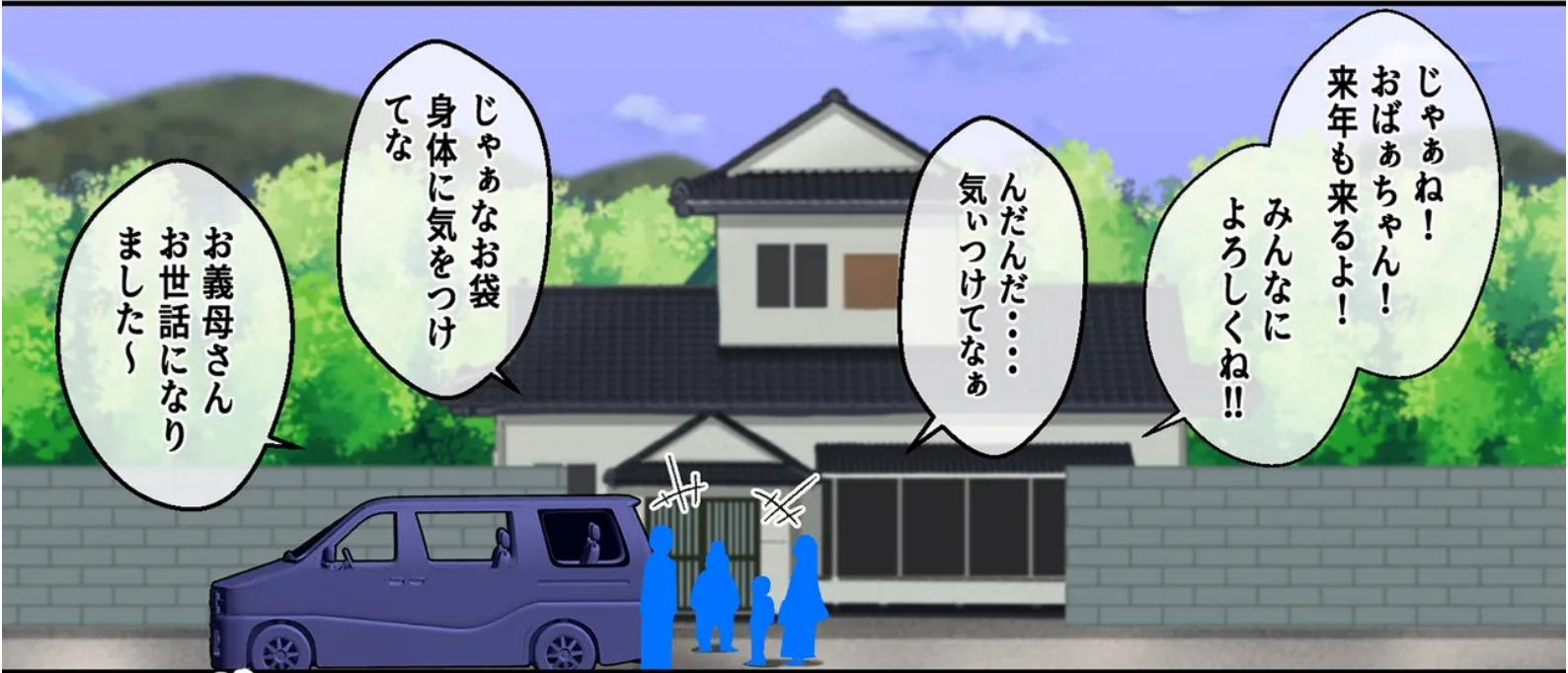
じゃあね！
おばあちゃん！
来年も来るよ！

みんなに
よろしくね！！

んだんだ……
気をつけてなあ

じゃあなお袋
身体に気をつけ
てな

お義母さん
お世話になり
ました！



帰り際、「来年も乳神様に会えるのかな……」と僕は思ったがこの思いは叶わない事となる。

その年、祖母が脚を悪くしたため田舎を離れ一緒に暮らす事が決まり田舎に行く事が無くなってしまったのだ。

田舎の友人たちとの予期せぬ急な別れは心を痛めたが、その後彼らも進学を機に田舎から離れる事となった。

それからというもの、田舎は急激な過疎化に見舞われ今はほとんど人は残っていないという。

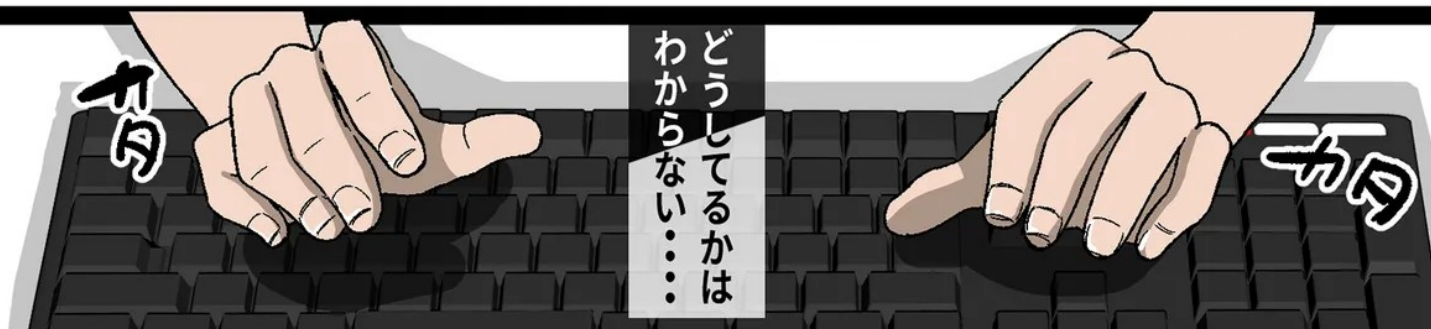


祖母は晩年。「人が減っていったのは乳神様がいなくなったからなのかもしれない」と語っていた。

果たして本当にそうなのか、それとも偶然なのか。いずれにせよ乳神様が今……



どうしてるかはわからない……





「エツツ!!」
「エロくてよかった」……

うんうん……
みんな楽しんで
くれたみたいだな

「乳神様はどこに
行ったんだろう」……か

気になるよね
それは……

でも……



まさか今自分の
後にいるなんて……

言っても信じて
くれるはずないもんなあ
……

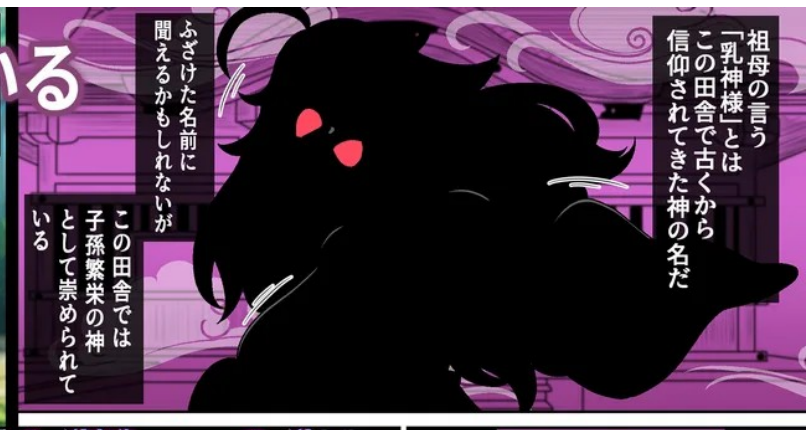
あれからすこく
気に入られて……

まさか村飛び出して
探し出されるとは
思わなかったもん……



ち、乳神様っ!?
ちよ、ちよっと
待って……

あっ……
ちよっとホントに
待っ……



乳神様のおっぱいに魅了されて……



お

きも

胸に
飲み
ま

乳神様は無邪気に
僕の上で
跳ねた
の度に
得も言われぬ
快感が僕を
襲っていた

な、なんか
変な感じするからあつ

ち、乳神様……っ
ちが……っ
ダメっ
跳ねないで……っ

その後
無我夢中で腰を
打ちつけた

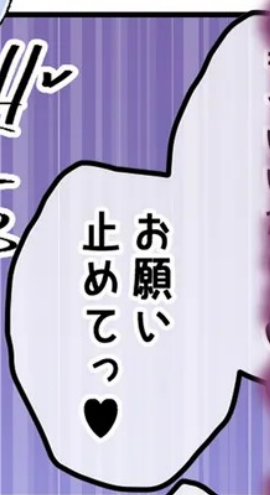
おっぱいで気持ちよくなる事を覚えてしまう♡♡

また
出る……っ
また出るっ
射精ちゃうっ

……!?

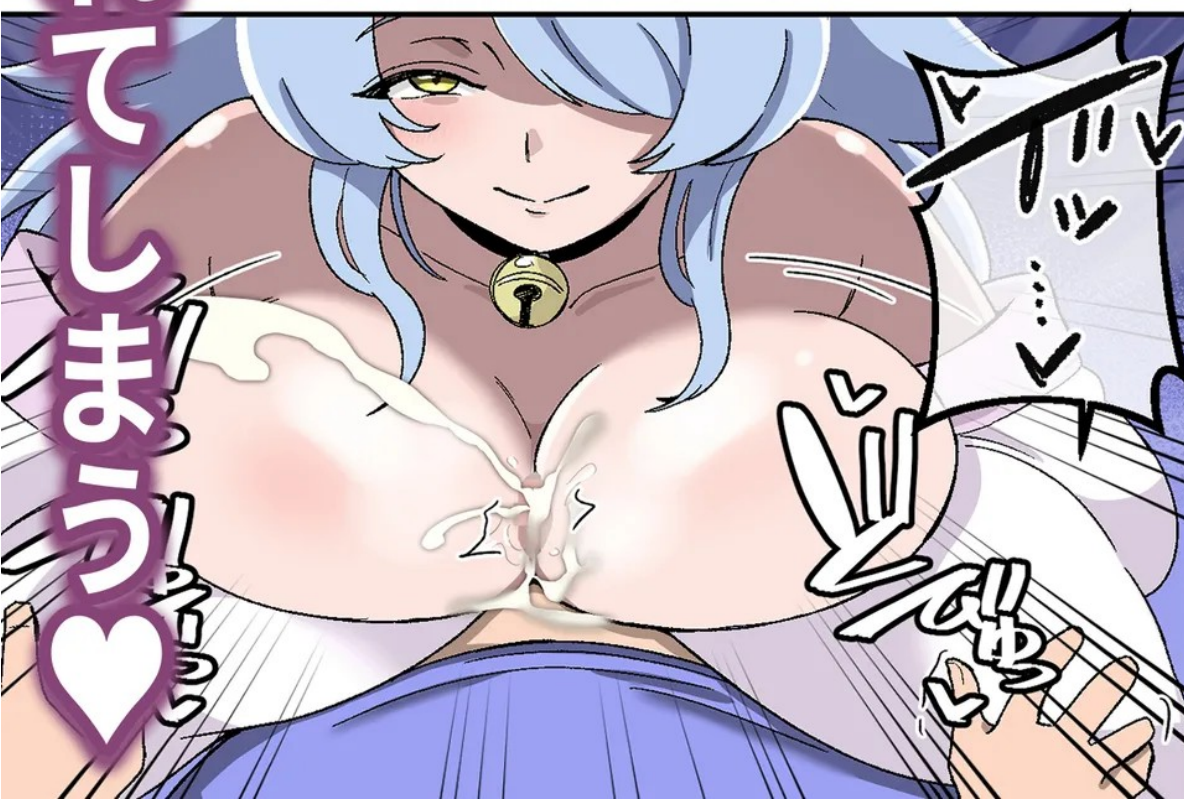
だめ!!
乳神様!!
だめえ!!

そんな乳神様の体に変化が現れて……？



必要以上に搾精されてしまっ♡

し申表の体台が





爆乳神様に搾り取られる



フルカラー50p♡



逃れられない...

もう「乳神様」からは...

おっ...

おっ...

本編フルカラー

50p

そのおっぱいに魅了されて……

魅了され遊ばれ搾精される僕の話

乳神様

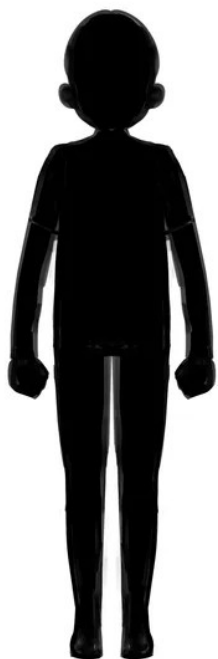






乳神様:設定図 (目安)

精を喰らうごとに成長していく





乳神様

とある田舎で子孫繁栄の神として
信仰されている。
偶に人前に姿を現し遊んで貰おうとする
人懐っこい一面がある。
しかし、彼女に魅了され帰ってこなくなる
という噂もある。

精を喰らうと成長する特性があり、かなり
体格が大きくなる。その後更に搾精行為を
行って来るため一度気に入られると解放
してもらえなくなる